

須崎半島を訪ねて：冬季巡検報告

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2018-07-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 篠ヶ瀬, 卓二
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://doi.org/10.14945/00025528

須崎半島を訪ねて

—冬季巡検会報告—

篠 ヶ 瀬 卓 二*

1. はじめに

静岡県地学会の冬季巡検会が、昨年 12 月 4 日、伊豆半島の先端に近い下田市須崎半島を中心に行われた。コースは、「えんそくの地学」(地学会発行)にある須崎半島恵比須島から爪木崎までである。案内役はこのコースの執筆をされた高橋豊会員、須崎地区の飯田区長、下田在住の飯田忠三会員の三名でした。

前日 12 月 3 日須崎入りした私たち小川会長他 7 名は、民宿に 1 泊し翌日にむけて、「えんそくの地学」や他の文献を読んだり、地質図を調べたり、それぞれ準備をした。

巡検当日、天気晴。雲はかなりあるが雨の心配はなさそうである。9 時 30 分集合場所である須崎のバス停まで行ったが、まだ、全員そろっていないようである。案内者が見えたのが、9 時 40 分。恵比須島の入口まで行き、松本仁美会員の進行で、会長あいさつ、講師紹介、日程説明などが行われる。いよいよ巡検会がはじまった。

2. 恵比須島の砂岩層と火山角レキ岩層

10 時に恵比須島に入る。海ソウや海棲動物の採集の好適地である。遊歩道を進むと、白い凝灰質の砂岩と黒色、かっ色をした角レキ状の安山岩が入った火山角レキ岩が互層するかのようにてでくる。高橋会員の話によると、白浜層に属する白い凝灰質の下賀茂砂岩層と火山角レキ岩質の須崎安山岩類が指交層理(インターフィンガー)しているためだそうである。南に広がる海食台は、磯遊びの絶好の場所で、ポットホールもいくつもあった。ここで、海ソウや小動物の観察もした。凝灰質の砂層の走向をはかると、N 50°~60°E、傾斜は、15°~20°N であった。

飯田区長のあとについて、20 m 程度の恵比須島の頂に登る。この頂には、昭和の初期に縄文時代の遺跡が発見されたという話であった。山頂には、灯台と若山牧水の歌碑があった。「友が守る 灯台はあわれ わだなかの 蟹めく岩に 白く立居り」と歌碑にはしるされている。ここからは南に利島、新島、神津島、神子元島、大島がかすんで見えた。恵比須島には、トベラ、カナリーヤシ、ツバキ、サザンカ、マユミなどの植物が観察された。11 時まで恵比須島見学。

3. 須崎遊歩道を通して、細間の段へ

11 時 25 分須崎魚協前の広場へ戻る。遊歩道を通して爪木崎まで行くことにしたが、この時刻から出発すると、昼食のとれる爪木崎に着くのは大分遅くなるであろう。遊歩道の入口に立ち、案内板を見る。案内板にしたがって、幅 2 m 程度の遊歩道に入る。約 10 分で坂道を登り、康申堂につく。さらに、細い遊歩道の坂を登りつめると、海拔 60~70 m の海岸段丘の段丘面の上に出た。11 時 50 分、平らな

*富士市立須津中学校

竹やぶの間をぬける細道を通って、細間の段が全望できる場所にする。この展望は、このコース随一のところで、右手には、恵比須島が眺められ、左手には、爪木崎の平坦面と白い灯台が見える。全員で記念撮影をする（写真1）。

この地域では、北西―南東の割れ目とそれに共役した割れ目が目につく。この割れ目の方向に、岩脈が入りこんでいるとのことである。

12時5分、細間の段出発。細間の海食台の発達した石切場跡へ向う。江戸城を築くのに石材として、切り出したといわれる。緑色をした凝灰質砂岩層でできている。

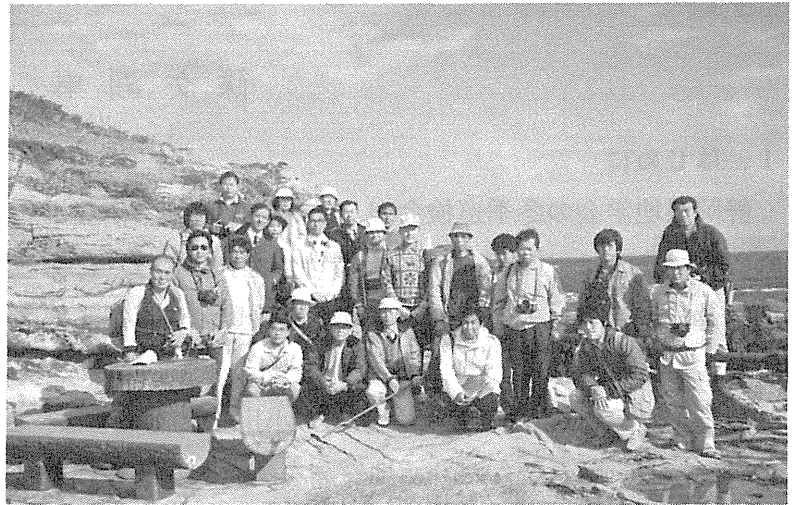


写真1 細間の段で記念撮影

4. 爪木崎へ

爪木崎へ向う。石切場を出発して、起伏と変化に富んだ遊歩道を腹をすかしたのも忘れて歩く。下賀茂砂岩層が熱水作用を受けて、白色から緑色にかわり、黄鉄鉱が見られる。途中安山岩の露頭を眺めて、昔の灯明台跡につく。さらに東に進むと、凝灰質の砂岩層の割れ目に、沸石、方解石などの結晶が採取できる場所に出る。しばらく皆で、これらの結晶をさがす。さらに海岸の遊歩道を東へ進むと、下賀茂砂岩層の赤茶けた白色変質帯に入る。ちょっと休憩。

田ノ浦の静かな入江を右に見て、ゆっくり歩を進めると、爪木崎に通ずる細いコンクリートの道路に出る。1時10分。須崎の漁港からの1時間45分の海岸の遊歩道歩きは終わった。爪木崎のレストハウスに着く。

5. おわりに

食事中に、最後の見学コースの説明をする。2時に全員で、爪木崎の灯台へ向う。12月15日より1カ月間水仙祭が開かれるそうで、ちらほら野水仙が咲きだしていた。

尾根に出る。尾根から西を見ると俵磯の須崎安山岩の柱状節理が、海につきだすように見える。

爪木崎灯台で、高橋会員が巡検コースの総まとめをしてくれた。特に、下賀茂砂岩層のたい積年代についてレピドシクリナから判断すると、新第三紀中新世から鮮新世の下部と考えるのがよいとされ、さらに、伊豆半島の、南の暖いところからの北上説についても話され、興味深く聞くことができた。

2時35分爪木崎灯台を下って池の段の磯におりる。波静かな入江である。林業事務所に勤務の相良さんが、海岸にあった石灰藻のイシゴロモについて説明してくれた。イシゴロモを各自何個か採集。伊豆にもまだこんな美しい静かなところがあったのかと思う。大変楽しい巡検会であった。相乗りの乗用車を動かし、車のそろった3時過ぎ解散。

おわりにあたり、資料をととのえて万全のコース案内をして下さった高橋豊会員、及び道案内をして下さった下田の二人の飯田氏に心から感謝するしだいです。